

自立と共生！

たくましい日本！

No. 209号

民主党 中川正春の **永田町かわら版**

2004年2月4日

〒100-8981 千代田区永田町2-2-1 衆議院第一議員会館 428号

TEL 03-3508-7128 FAX 03-3508-3428

<http://www.MASAHARU.GR.JP>E-mail g03063@shugiin.go.jp

○自民党の強行採決と乱闘

恰好悪くてすみません

ひどいめにあいました。30日のイラク特別委員会が、与党の強行採決で、乱闘騒ぎになってしまいました。事前に用意をした「委員長解任決議案」をもって委員長席に駆け寄ろうと立ち上がったとたんに、ごつい体を丸ごとぶつけて、仁王みみたいな顔で立ちはだかる自民党の一年生議員に行く手を阻まれてしまいました。隣では、外交官出身で普段はとてもやさしい民主党の末松議員が、しっかりその気になって、前に立ちはだかる自民党議員相手に取っ組み合いを始めています。どうも本気らしい二人の間に割って入ると同時に、自民党の中谷元筆頭理事に抗議をしている間に、斎藤委員長が、一方的な裁決をしてしまいました。気がついてみたら、右手の甲に引っかき傷が出来て出血。なんとも言い尽くせない悔しさで、しばらくは呆然と立ちつくしてしまいました。

テレビが私の手の甲をアップで映し出したそうで、ニュースを観た多くの皆さんから「大丈夫か」とお電話をいただきました。まことに恐縮しています。

アメリカのブッシュ大統領に言われて、小泉総理は断りきれずに自衛隊を出す決断をした。イラク攻撃とその後の占領統治政策をアメリカ一国主義だとヨーロッパのフランス、ドイツに批判されて、それをかわす必要に駆られたのがブッシュ大統領。そこで、**ブッシュは小泉総理に白羽の矢を立て、日本が自衛隊を送ることでブッシュ政権の顔を立てる役割を要求しました。小泉総理には、大局にたってこれを断る勇氣と氣概がなかったのです。**

初めから自衛隊の派遣ありきの議論は、さまざまな矛盾が、国会の審議が進むほどに、表面化してきます。PKO法の枠組みを超えた自衛隊派遣を求める「イラク特措法」は、憲法が禁じる「武力行使と一体化した活動」はしないと説明する必要がありました。

になってしまいます。また、テロ攻撃には、自己防衛の範囲で武器を使うとは言うものの、自衛隊は、犯人の追跡や、反撃はできない。憲法は自衛隊の両手を縛っています。これが敵に分かれれば、標的になる。「一番弱いところを、敵はねらってくる」と、専門家が心配するところです。

先週の委員会での新たな議論では、私は、のっけから、現場に即した現実的な議論をしようと提案しました。自衛隊の派遣命令を発した根拠になっている現地についての報告、特に先遣隊がもたらした情報の中味が確かなものかどうか徹底的に検証することが大事だと思っていました。先遣隊の一部が帰国しているのだから私達の委員会で直接の現地報告をするべきだと、主張しているにもかかわらず、防衛庁はすぐさま彼らにサマワ帰還命令を出してしまいました。私達から逃がしてしまったのです。さらに審議の過程で、サマワ市評議会という現地の住民を代表する組織の有無について本会議場での総理大臣の発言が撤回されるという前代未聞の失態がありました。共産党からは、報告書の事前シナリオが内部告発で暴露されました。先遣隊が派遣される前に、報告書の骨格が作られていたのです。先に「自衛隊派遣ありき」が政府の都合のいい情報操作を生み、国民をだます結果になっていることが明らかになりました。

当てにならない情報で自衛隊にもしものことがあってはならない。今後の国会でも、現地への直接の調査も含めて、確かな議論をすることが求められています。

○拉致問題で訪韓

5日、6日と韓国に行きます。民主党の北朝鮮拉致問題対策本部の鳩山由紀夫本部長と渡辺周事務局次長とともに、韓国に逃げ帰った韓国人の拉致被害者と会います。日本の国会で北朝鮮でのスパイ教育などの悲惨な体験を証言してもら

「戦闘地域」と「非戦闘地域」に、分けた上で、非戦闘地域にしか派遣はしないから大丈夫と言います。しかし、具体的にイラクのどこが非戦闘地域にあたるのかと訊かれると、「自衛隊が派遣される所は皆それにあたる。」と答えるに及んでは、石破防衛庁長官の答弁は、言葉の遊び(フィクション)

事にしたいと思っています。さらに、韓国政府の要人に、韓国内の拉致問題を政府がしっかりと取り上げて、日本と連携しながら金正日政権と対峙していかうと働きかけます。ソウルは今、とても寒いようです。